プレスリリース

柿右衛門
古伊万里
金襴手展

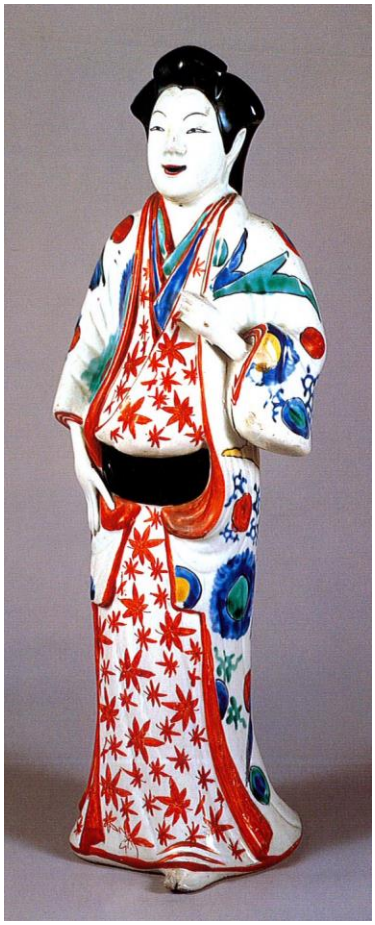
2015 年 10 月 6 日(火)
～12 月 23 日(水・祝)

TOGURI MUSEUM OF ART
財団法人 戸栗美術館

右：画像① 色絵 双鶴文 輪花皿
左：画像③ 色絵 獅子牡丹菊梅文 蓋付壺

広報用写真

※以下の展示予定作品の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は注意事項をご覧の上、別紙写真借用申請書をお送り下さい。



画像②　色絵 婦人像
伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）
高 39.2 ㎝
戸栗美術館所蔵

画像④　色絵 花鳥文 皿
伊万里
江戸時代（18 世紀前半）
高 10.5cm　口径 54.5cm　高台径 27.2cm
戸栗美術館所蔵

画像⑤　色絵 五艘船文 鉢
伊万里
江戸時代（18 世紀初）
高 8.0cm　口径 25.5cm　高台径 12.8cm
戸栗美術館所蔵

■（表紙）画像①　**色絵 双鶴文 輪花皿**　　伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）　高 3.8 ㎝　口径 22.5 ㎝　高台径 13.7 ㎝
　柿右衛門様式完成期の典型作。土型を用いて端正な十二角を作り出している。2 羽の鶴を赤と青で描き分けているが、全体に赤を基調とした絵付けは濁手（にごしで）の素地によく映える。マイセン窯などで模倣されており、西欧での人気ぶりがうかがえる。裏面の高台には孔があり、飾り皿として用いられた様子を伝える。

■画像②　**色絵 婦人像**　　伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）　高 39.2 ㎝
　西欧へ向け数多く輸出された柿右衛門様式を代表する作品。型による成形のため同じ顔、姿の像が多く残るが、上絵付の眉、眼、口の描き様で各々表情が異なり、衣類の文様の違いからも趣に変化がみられる。御所髷（ごしょまげ）という寛文（1661-1673）から元禄（1688-1704）頃に流行した髪形や、寛文頃出された衣装文様集から採り入れたとも考えられる打ち掛けの熨斗（のし）文は、時代性をあらわした華やかさを感じさせる。

■画像③　**色絵 獅子牡丹菊梅文 蓋付壺**　　伊万里
江戸時代（17 世紀末～18 世紀前半）　通高 74.6 ㎝　口径 20.8 ㎝　底径 20.8 ㎝
　沈香壺（じんこうつぼ）と呼ばれる形式の大振りな壺。高めの頸からふくよかに胴が張り裾にむかって窄まる器形で、鈕のある大きな蓋が付く。17 世紀後半から西欧向けにつくられた輸出品であり、オールド・ジャパンと呼ばれる。肩の菊花や胴の窓枠を設けた意匠は均整のとれた文様構成であり、染付・上絵の赤・金彩による装飾の丁寧な筆遣いと相俟って端整な仕上がりとなっている。

■画像④　**色絵 花鳥文 皿**　　伊万里
江戸時代（18 世紀前半）　高 10.5cm　口径 54.5cm　高台径 27.2cm
　輸出用の大皿。見込は染付圏線の窓内に牡丹を挿した壺と双鳥、周囲六方に渦文と流水菊を描く。縁周りは如意頭形の窓を 6 個設け、染付の濃地（だみじ）に紅白の牡丹と金の唐草を組み合わせた意匠と、色絵の黒に蝶の意匠を交互にあらわす。裏面は三方に梅枝文を配し、高台は砂高台、目跡を 9 個残す。

■画像⑤　**色絵 五艘船文 鉢**　　伊万里
江戸時代（18 世紀初）　高 8.0cm　口径 25.5cm　高台径 12.8cm
　内面に 3 艘、外面に 2 艘の船を描いた「五艘船」と称される型物。緑と紫の花文を地文様として描き埋め、その上にオランダ人、唐花文、船を描いた窓を配す。鮮やかな色絵に加え、金彩を多用することで重厚な印象に仕上げている。高台内は染付圏線に赤と金で「壽」の文字を記す。

以上を含む、約 80 点を展示予定

展覧会概要

江戸時代、佐賀・有田において初の国産磁器として生まれた伊万里焼。17 世紀前期から約 100 年の間、時代の要求に応じて様々な様式を展開しました。特にその技術が頂点に達した 17 世紀後半から 18 世紀前半は、伊万里焼が国内のみならず西欧をはじめとした海外へ華々しく進出した時代です。

世界の磁器市場を独占していた中国が明清王朝交代に伴う混乱の中で磁器の輸出量を減少させたことを契機とし、伊万里焼は中国磁器にとってかわるべく、西欧の人々の嗜好に合わせた製品を開発し販路を広げました。17 世紀後半には、乳白色の濁手（にごしで）と呼ばれる素地に明るい赤を基調とした賦彩を施した薄作りの皿類のほか、着物姿の婦人像など、西欧の人々の東洋趣味をくすぐる製品が数多く製造されています（柿右衛門様式）。

続く元禄年間（1688-1704）、海外輸出を再開した中国磁器と市場をめぐり競争へと陥りますが、伊万里焼は作風・様式を量産向けに転換することで対抗します。この頃の製品（古伊万里金襴手様式）は、左右対称の構図や文様の反復を基本とした量産向きの意匠でありながら、染付・色絵の上に更に金彩を施した絢爛豪華なもの。大型の壷や皿は西欧の王侯貴族の宮殿を飾る室内装飾品として用いられました。また、同時に経済の安定した国内において、豊かになった商人・町人たちの間でも高級品として受容されました。

今展では、17 世紀後半から 18 世紀前半にかけて製造された伊万里焼を約 80 点展示。国内のみならず遠く海を渡り西欧の人々を魅了した名品の数々をご紹介致します。

展示詳細

■柿右衛門様式

伊万里焼は、既に 1640 年代より色絵磁器の製造が始まり、一部は東南アジアへも輸出されていました。やがて 1670 年代に輸出事業の本格化に合わせ、西欧向けの新たな様式が成立します。この頃に製造された色絵磁器は、有田の職人や窯場を牽引する存在であった酒井田柿右衛門の名をとり“柿右衛門様式”と称されます。

柿右衛門様式は、最大の特徴である濁手（にごしで）と呼ばれる乳白色の素地に、明るい赤を基調とした色絵を施したものが最上級品とされ、型を用いた精緻で薄作りな皿や鉢類が数多く生産されました。それらは濁手素地の白の美しさを活かすため、余白を多くとった絵画性の高い意匠を採用しており、繊細な筆致にもこの時代の絵付師の技術の高さがうかがえます。

色絵 梅竹粟鶉文 皿（部分）
伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）

Kakiemon style

■古伊万里金襴手様式

伊万里焼の海外輸出が最盛期を迎える中、1680 年代には中国磁器の本格輸出が再開されます。市場をめぐり中国磁器と競うことで、伊万里焼は新たな様式へと展開していきます。

“古伊万里金襴手様式”と呼ばれる 17 世紀末～18 世紀初頭に成立した様式は、窓絵を用いた左右対称の構図や文様の反復を基本とした量産向きの意匠でありながら、染付・色絵の上から金彩をふんだんに加えた華やかなものでした。その作風は、中国嘉靖年間（1522-1566）に景徳鎮窯で製造され、金彩の輝きを染織品の金襴に見立て、日本で“金襴手”と呼ばれたやきものに想を得たと考えられています。西欧からの注文を受け、王侯貴族の宮殿を飾る室内装飾品として相応しい絢爛豪華な大壺や大皿が数多く生産され、海を渡りました。

色絵 菊牡丹文 壺
伊万里
江戸時代（17 世紀末～18 世紀前半）

また、同様式では国内用の小振りな鉢や皿類もつくられています。元禄年間（1688-1704）にあたる日本国内は商人や町人が力をつけ、奢侈を好む華やかな町人文化が栄えた頃。それまで大名など限られた上層階級の人々が手にしていた伊万里焼が、裕福な町人たちの間でも享受されるようになりました。

色絵 唐花瓔珞文 鉢
伊万里　江戸時代（18 世紀）

■同時代の染付

“柿右衛門様式”“古伊万里金襴手様式”は色絵磁器を指しますが、各時代には並行して高品質な染付磁器も数多く生産されています。染付による絵付けは伊万里焼の草創期の頃から用いられていますが、17 世紀後半にはその技術が頂点に達し、細線や濃（だみ）による塗り埋め、濃淡を駆使した巧みな絵付けが施されるようになりました。背景には、伊万里焼の海外輸出を手掛けたオランダ東インド会社の存在があり、中国磁器に代わる高品質な製品を求められた結果、伊万里焼の技術向上へと繋がったと考えられています。

染付 花籠文 皿
伊万里　江戸時代（17 世紀後半）

そうして生み出された染付製品には、国内向けの高級食器として皿や向付などがあったほか、西欧の生活様式に合わせた食器類、中国・景徳鎮窯製品を写した芙蓉手と呼ばれる皿類、装飾品として大型の壺や瓶などの輸出品があり、オランダ東インド会社を通じた伊万里焼の海外輸出は 18 世紀前半まで続きました。

Kolimari Kinande style
Under glaze blue

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

■ 40 word

17 世紀後半～18 世紀前半に西欧への輸出向けにつくられた伊万里焼約 80 点を展示。

■ 97 word

江戸時代、佐賀・有田に誕生した伊万里焼。製造技術が頂点に達した 17 世紀後半以降は、国内のみならず遠く海を渡り西欧の王侯貴族らを魅了した。柿右衛門様式・古伊万里金襴手様式の名品約 80 点を紹介する。

■ 145 word

江戸時代、佐賀・有田に誕生した伊万里焼。17 世紀後半には製造技術が頂点に達し、白地に鮮やかな色絵の映える高品質な製品を生み出した。17 世紀後半から 18 世紀初頭に製造され、国内のみならず遠く海を渡り西欧の王侯貴族らを魅了した伊万里焼、柿右衛門様式・古伊万里金襴手様式の名品約 80 点を紹介する。

展示解説

展示期間中、第 2 週・第 4 週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行ないます。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第 2・第 4 水曜 午後 2 時～ (10 月 14・28 日、11 月 11・25 日、12 月 9・23 日)

■第 2・第 4 土曜 午前 11 時～ (10 月 10・24 日、11 月 14・28 日、12 月 12 日)

※各回、約 40 分～50 分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話（03-3465-0070）による事前予約制。お気軽にご連絡くださいませ。

外国語展示解説 (英語)

展示期間中、当館スタッフによる英語の展示解説を行います。
参加ご希望の方は、事前に電話または申込みフォームからお申込みください。
詳しくは、当館ホームページをご覧下さい。

メモリアルデー

10 月 14 日（水）は当館創設者 故 戸栗亨を偲び、メモリアルデーとして終日無料開館致します。当日は、午前 11 時と午後 2 時の 2 回、学芸員による展示解説を行います。

戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、創設者・戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987 年 11 月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。

会場　　：戸栗美術館
開館時間：10：00～17：00 (入館受付は 16:30 まで)
休館日　：月曜日
※10 月 12 日（月・祝）・11 月 23 日（月・祝）は開館、
翌 10 月 13 日（火）・11 月 24 日（火）は休館。
入館料　：一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円（団体 20 名様以上で 200 円割引）
※10 月 14 日（水）は創設者戸栗亨のメモリアルデーのため、無料観覧日となります。
交通　　：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分／京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分
※当館には駐車場・駐輪場はございません。

■Youtube 戸栗美術館チャンネル

http://www.youtube.com/channel/UCGsnhei61hDkvDQlftWy9ZA

■次回展示予定

2016 年 1 月 7 日（木）～3 月 21 日（月・振休）

鍋島焼展

TOGURI MUSEUM OF ART
戸栗美術館

■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館
広報担当宛
〒150-0046　東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL：03-3465-0070　FAX：03-3467-9813
URL：http://www.toguri-museum.or.jp/
E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp

アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。 1 年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費　￥５，０００（税込）　／　発行から１年間有効

※有効期限内のご更新は、４，５００ 円です。
（期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5，０００ 円となります）

特典①　入会から1 年間、何度でもご入館いただけます。

特典②　ご入会時に戸栗美術館オリジナルグッズをプレゼント。
（はがき5枚、A5クリアファイルのどちらかをお選びいただけます）

特典③　年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。

特典④　展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
(所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順)

特典⑤　会員様を含めた3 名以上の団体様は、学芸員による展示解説〈ミニツアー〉を受ける事ができます。（随時予約受付、所要時間約30分）

特典⑥　各展示に1 回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（参加費1500円、所要時間約3 時間半、要予約・定員制・先着順）

特典⑦　企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、招待券2 枚、展示ご案内チラシをお届けいたします。

特典⑧　ミュージアムグッズを価格の1 割引きでご購入いただけます。
（一部除外品あり）